「地元住民の帯広畜産大学の利用・認識に関するアンケート調査」
報告書

2019 年 3 月 29 日

国立大学法人帯広畜産大学
環境農学研究部門
農業経済学分野

教授　澤田　学

目　次

1．調査結果の要約 ･･･ 1

2．調査の方法 ･･･ 3

2.1．実査の方法と調査対象

2.2．集計・分析方針

2.3．回答者の属性

3．本学の訪問経験と訪問理由（設問 2～設問 5） ･････････････････････････ 6

4．本学主催イベントの認知度と情報源（設問 6，設問 7） ･････････････････ 9

5．本学オリジナル乳製品の認知度と購入経験（設問 10） ･････････････････ 11

6．本学ロゴマークの認知度（設問 1） ･････････････････････････････････ 13

7．本学に対する認識･評価（設問 8） ･････････････････････････････････ 15

8．本学学生に対する認識･評価（設問 9） ･････････････････････････････ 18

9．本学学生に望む地域協力活動（設問 11） ･････････････････････････････ 23

10．提言 ･･･ 25

付録　地元住民による帯広畜産大学の利用・評価に関するアンケート調査票

1. 調査結果の要約

「地元住民の帯広畜産大学の利用・認識に関するアンケート調査」（以下，「本調査」と称す）は，帯広畜産大学（以下，「本学」と称す）が，地域により親しまれる大学を目指す上で必要な方策を検討するための基礎的情報を収集することを目的に，地元住民が本学をどのように利用し，本学と本学学生にどのような認識を持っているのかを明らかにするために実施した．

調査対象は，2018 年 6 月 7 日（木）に，市内のダイイチ自衛隊前店，イオン帯広店，イトーヨーカドー帯広店の各店舗入口において，作為抽出法によって選択し，197 名（ダイイチ自衛隊前店来店者 71 名，イオン帯広店来店者 64 名，イトーヨーカドー帯広店来店者 62 名）から回答を得た．作為抽出による標本のため，調査対象の母集団は特定できないが，本調査の回答者のほとんどは帯広市に在住する地元住民であるとみなして，集計・分析を行った．

調査結果の概要は次のとおりである．

(1)　調査回答者のプロフィール

・調査回答者全体の 74%は女性で，帯広市 15 歳以上人口に占める女性割合を 20 ポイント上回る．年代構成比率は帯広市 15 歳以上人口のそれとほぼ同じである．十勝管内居住年数 5 年以上の回答者が全体の 77%を占め，回答者の約 4 割が本学の教職員あるいは学生の知り合いがいた．

(2)　本学の訪問経験と訪問理由

・6 割の回答者が本学を訪れたことがあり，訪問目的は，多い順に「大学生協売店利用」（28%），「畜大祭訪問」（25%），「カフェ利用」（23%），「構内散策」（15%），「大学生協食堂利用」（14%），「学内施設見学」（11%）である．

・本学を訪れたことがない回答者がその理由として挙げた最多のものは「用事が無い」（67%），次いで「構内に入ってよいのかわからない」（20%）である．しかし，「イベントや講演会の情報」（66%），「入りやすい雰囲気」（31%）があれば本学を訪れてみたいと思っている．

(3)　本学主催イベントの認知度と情報源

・本学や本学学生が主催しているイベントで最も知られているものは，「畜大祭」（54%～75%），次いで，「寮祭」（24%～34%），「乗馬体験」（13%～18%），「各種講演会」（9%～13%），「畜大ふれあいフェスティバル」（8%～11%），「みんなのちくだい。」（8%～11%），「市民向け講座」（6%～8%），「子ども体操教室」（5%～7%），「十勝ジンギスカン会議」「ふれあい牧場親子体験学習」（各 4%～5%）の順である．

・本学等が主催するイベントの情報源として最も多かったのは，回答者全体では，地元紙の「十勝毎日新聞」（44%），次いで「口コミ」（25%），「帯広市の広報誌」（15%），「ポスター」（14%），「テレビ番組での紹介」（8%），「本学のホームページ」（5%），「帯広市のホームページ」「十勝毎日新聞以外の新聞」（各 4%）である．年代別に見ると，60 代以上の回答者は過半が「十勝毎日新聞」を情報源として挙げている一方，30 代以下の回答者では新聞やテレビ，広報誌といった従来型の情報媒体より，口コミや SNS が主要な情報源として利用されている．

(4)　本学オリジナル乳製品の認知度と購入経験

・本学オリジナル乳製品の中では「畜大牛乳（高温殺菌）」の認知度が最も高く（73%），次いで「畜大牛乳（低温殺菌）」（70%），「畜大牛乳アイスクリーム」（56%）の順である．各製品の購入経験率も同順だが，いずれも認知度を 30 ポイント程度下回っている．

・年代別に見ると，特に 60 代以上の回答者で「畜大牛乳（高温殺菌）」と「畜大牛乳（低温殺

菌)」の認知度および購入経験率,「畜大牛乳アイスクリーム」の購入経験率が高い.

・また，本学関係者の知り合いがいる回答者で「畜大牛乳（低温殺菌)」,「畜大牛乳アイスクリーム」の認知度が高い.

(5)　本学ロゴマークの認知度

・2017 年に制定された本学のロゴマークの認知度は，回答者全体では 19%と低い.

・しかし，60 代以上の回答者では 30%，本学関係者の知り合いがいる回答者では 28%と相対的に高い.

・本学学生に本学ロゴマークとその意味を尋ねたところ．対象学生全体の 71%が本学のロゴマークを知っていたが，その意味まで知っている学生は 2%未満であった.

(6)　本学に対する認識･評価

・「本学は活気がある」,「本学は魅力的である」,「本学は親しみやすい」,「本学は信頼できる」の各項目について 5 段階評定してもらった結果，それぞれ,“どちらともいえない”（36%),“どちらかといえばそう思う”（39%),“どちらともいえない”（38%),“どちらかといえばそう思う”（38%）が最も多かった.

・いずれの評価項目に関しても,“そう思う”と“どちらかといえばそう思う”を合わせた肯定的評価が 6 割以上と,“そう思わない”と“どちらかといえばそう思わない”を合わせた否定的評価（4%以下）を大きく上回った.

・これらの項目の評定値の間には強い正の相関が認められた.

(7)　本学学生に対する認識･評価

・「本学学生は活気がある」,「本学学生は親しみやすい」,「本学学生は礼儀やマナーを守る」,「本学学生には高い専門知識がある」の各項目について 5 段階評定してもらった結果，それぞれ,“どちらかといえばそう思う”（39%),“どちらともいえない”（36%),“どちらともいえない”（36%),“そう思う”（43%）が最も多かった.

・いずれの評価項目に関しても,“そう思う”と“どちらかといえばそう思う”を合わせた肯定的評価が 6 割以上と,“そう思わない”と“どちらかといえばそう思わない”を合わせた否定的評価（5%以下）を大きく上回った.

・これらの項目の評定値の間には強い正の相関が認められた.

(8)　本学学生に望む地域協力活動

・最も多かったのは「子どもの学習支援」（43%)，次いで,「自然環境保全活動」（40%),「地元のイベント運営」（28%),「高齢者の支援」（25%),「まちづくりの企画運営」（24%),「障がい者の支援」（17%),「地域清掃活動」（15%),「外国人の支援」（14%),「スポーツ指導」（10%）である.

・「子どもの学習支援」は女性や 40・50 代の回答者で,「自然環境保全活動」は 60 代以上や十勝管内居住年数 5 年未満か管外に居住する回答者で要望が多く，60 代以上の回答者では「高齢者の支援」を望む割合が高かった.

・本学学生に参加してみたい地域協力活動を尋ねた結果,「自然環境保護活動」（38%),「子どもの学習支援」（17%),「地域清掃活動」（14%),「地元のイベント運営」（13%),「外国人の支援」（10%),「スポーツ指導」（6%),「障がい者の支援」（4%）は一定割合の参加希望があるが,「高齢者の支援」を挙げた本学学生は皆無であった.

2. 調査の方法

2.1. 実査の方法と調査対象

「地元住民の帯広畜産大学の利用・認識に関するアンケート調査」（以下，「本調査」と称す）は，本学畜産科学課程農業経済学ユニットの 2019 年前期木曜日 5 時限～8 時限開講の「農業経済学実習Ⅱ」の一環として実施した．本授業では，社会調査の手法を用いて地域社会の現状と課題に関する認識を深めるために，特定の調査テーマを設定し，調査票の作成，フィールド実査，調査結果の分析と取りまとめまでの一連の作業を実習する．澤田が指導を分担した受講生 9 名の話し合いで，本学が地元住民に共同研究以外の領域でどのように利用され，認識されているのか調べたいということになった．

そこで，本調査では，本学が地域により親しまれる大学を目指す上で必要な方策を検討するための基礎的情報を収集することを目的に，地元住民が本学をどのように利用し，本学と本学学生にどのような認識を持っているのかを明らかにすることを調査テーマとした．

調査対象は，次の要領で作為抽出法によって選択し，197 名から回答が得られた．2018 年 6 月 7 日（木）午後 1 時～4 時の時間帯に，ダイイチ自衛隊前店，イオン帯広店，イトーヨーカドー帯広店の各店舗入口において，本調査への同意承諾が得られた来店者にアンケート調査票（本報告書付録参照）を配付し，その場で調査票に回答を記入してもらった後，回答済み調査票を回収した．回答済みアンケート調査票の回収件数は 197 件（ダイイチ自衛隊前店 71 件，イオン帯広店 64 件，イトーヨーカドー帯広店 62 件）であった．作為抽出法とは，「調査に協力していただけそうな人に調査を依頼する」方法による調査対象の選択方法であり，調査対象の母集団は特定できないが，本調査の回答者のほとんどは帯広市に在住する地元住民であるとみなして，集計・分析を行った．

2.2. 集計・分析方針

調査結果のうち，単一回答質問では各選択肢を選んだ回答者の度数（単位：人），その構成比（単位：パーセント），無回答を除いた場合の構成比（有効パーセント）を表示した．複数回答質問では各選択肢を選んだ回答者の度数，その有効回答者総数に占める割合（ケースのパーセント）を表示した．なお，クロス集計は，無回答を排除して作表しているため，クロス集計の有効回答度数の合計と単純集計（全体）の総度数とは合致しない．

回答者属性別のアンケート回答内容の傾向をみるため，単純集計とともに，性別（男性，女性），年代別（30 代以下，40･50 代，60 代以上），十勝管内居住年数別（5 年未満か管外に居住，5 年以上），回答者自身と本学の関係別（知り合いに本学の教職員や学生がいる，いない）を集計軸としたクロス集計を行った．

単一回答質問（変数）の回答データどうしの関連が項目全体としてあるかあるかどうかの独立性の検定は χ^2 検定によって行い，検定の結果，2 変数間に有意な関連がみられた場合は，クロス集計表のどのセルが変数間の関連に大きな影響を与えているかを残差分析で吟味した．ただし，複数回答質問の回答データのクロス集計結果については，回答選択肢ごとに χ^2 検定を行った．本学ならびに本学学生に対する認識を尋ねる質問については，各評定項目に対して「そう思う」，「どちらかといえばそう思う」，「どちらともいえない」，「どちらかといえばそう思わない」，「そう思わない」の 5 段階評価で，最も当てはまるもの 1 つを回答してもらうので，その回答データは順序データであり，しかも予め正規性を仮定できない．そこで，各評定項目について得られた 2 つあるいは 3 つの独立した回答者属性カテゴリ群における回答データ間の中央値に差があるかどうかを，それぞれ，Wilcoxon の順位和検定，Kruskal-Wallis 検定によって統計的に検定した．さらに，特定の属性カテゴリに属する回答者群について評定項目別の回答データの中央値に差があるかどうかを Wilcoxon の符号付順位検定によって統計的に検定した．なお，いずれの統計的検定も有意水準（多重比較の場合は，調整済み有意水準）を 0.05（5%）に設定して行った．

2.3. 回答者の属性

回答者の男女比は，女性が 74%，男性が 26%であった（表 1），帯広市住民基本台帳に基づく 2018 年 6 月末現在の帯広市 15 歳以上人口の男女比（女性 53%，男性 47%）に比べ，女性の比率が 21 ポイント高いが，これは，本アンケート調査を実施した平日午後の総合スーパーや食品スーパーの来店者の多くが，普段の買い物を担う女性で占められているためと考えられる．

表1 回答者属性(性別)

	度数（人）	パーセント	有効パーセント
男性	41	23.7	26.3
女性	115	66.5	73.7
小計	156	90.2	100.0
無回答	17	9.8	
合計	173	100.0	

回答者の年齢構成は，60 代が 21%と最も多く，次いで 50 代（16%），40 代（15%），70 代（15%）であった（表 2）．帯広市住民基本台帳に基づく 2018 年 6 月末現在の帯広市 15 歳以上人口の年齢構成と比較すると，80 代が 5 ポイント少ないのを別にすれば，どの年齢階層の構成割合も最大で 2～3 ポイントの違いであった．

回答者の十勝管内居住年数の構成は，5 年以上が最も多く無回答者を除く全体の 82%を占め，次いで十勝管外に居住 7%，1 年以上 5 年未満 6%であった（表 3）．年齢階層別にみると年代が高くなるほど十勝管内居住年数が長い傾向があり，60 代以上の回答者の 86%が十勝管内に 5 年以上居住していた．他方，十勝管内居住年数が 5 年未満か管外に居住する回答者は比較的若い年代が多く，30 代以下の回答者では 28%を占めた．

回答者の職業は，雇用者（勤めている）が 38%と最も多く，次いで専業主婦 24%，無職 23%の順であった（表 4）．なお，「その他」の職業の具体的内容は，“会社役員”，“産休中自営”であった．男性では，雇用者（51%），無職（34%），女性では専業主婦（34%）の割合が相対的に高く，無職と回答した人の 83%が 60 代以上であった．

表2 回答者属性(年代)

	度数（人）	パーセント	有効パーセント
10代	8	4.6	4.7
20代	17	9.8	9.9
30代	23	13.3	13.5
40代	26	15.0	15.2
50代	28	16.2	16.4
60代	36	20.8	21.1
70代	25	14.5	14.6
80代以上	8	4.6	4.7
小計	171	98.8	100.0
無回答	2	1.2	
合計	173	100.0	

表3 回答者属性（十勝での居住年数）

	度数（人）	パーセント	有効パーセント
1年未満	7	4.0	4.3
1年以上5年未満	10	5.8	6.2
5年以上	133	76.9	82.1
十勝管外に居住	12	6.9	7.4
小計	162	93.6	100.0
無回答	11	6.4	
合計	173	100.0	

表4 回答者属性（職業）

	度数（人）	パーセント	有効パーセント
勤めている	65	37.6	38.2
自分で経営している	16	9.2	9.4
専業主婦（夫）	41	23.7	24.1
学生	7	4.0	4.1
無職	39	22.5	22.9
その他	2	1.2	1.2
小計	170	98.3	100.0
無回答	3	1.7	
合計	173	100.0	

設問 12 で，「知り合い（あなた自身を含め）に帯広畜産大学の教職員または学生がいるかどうか」を尋ねたところ，無回答を除く回答者全体の 42%が，知り合いに本学の教職員や学生がいると回答した．

表5 回答者属性（自身と帯広畜産大学の関係）

	度数（人）	パーセント	有効パーセント
知り合いに本学の教職員や学生がいる	69	39.9	41.6
知り合いに本学の教職員や学生はいない	97	56.1	58.4
小計	166	96.0	100.0
無回答	7	4.0	
合計	173	100.0	

3. 本学の訪問経験と訪問理由（設問 2～設問 5）

回答者に「あなたは帯広畜産大学を訪れたことがありますか」と尋ねたところ，有効回答者全体の 60%が訪れたことがあると回答した（表 6）．表 6 には回答者属性別のクロス集計結果も載せているが，本学訪問経験の有無と統計的に有意な関係が認められた回答者属性は，十勝管内居住年数と，自身と本学の関係であった．つまり，十勝管内居住年数が 5 年以上の回答者，本学の教職員や学生に知り合いのいる回答者は，本学を訪問した割合がそれぞれ，62%，73%と相対的に高かった．なお，本調査では，本学訪問の頻度やいつ頃訪問したかは尋ねていない．

表 7 は，本学を訪れたことがあると回答した回答者に訪問の目的を尋ねた集計結果である．あてはまる訪問理由のすべてを選択してもらう複数回答質問であるが，選択した理由の数は 1 つのみの回答者が 61%と最も多く，次いで 2 つが 22%，3 つが 9%で，これらで有効回答全体の 92%を占めた．最も多かった訪問目的は，「大学生協売店の利用」で有効回答者全体の 28%を占めた．大学生協売店は，後述する本学オリジナル商品の購入などで利用されていると考えられる．次いで，大学祭 25%，カフェの利用 23%，構内散策 15%，大学生協食堂の利用 14%，学内施設の見学 11%であった．「その他」の理由として自由記述回答で多かったのは，馬などスポーツの試合参加や観戦（6 人），各種試験の受験会場としての利用（5 人），仕事（4 人），子供の入学式や卒業式出席（4 人），送迎（3 人），本学関係者訪問（2 人）であった．

回答者属性別にみると，女性，30 代以下の年齢階層，十勝管内居住年数が 5 年未満か管外に居住する回答者でカフェの利用を訪問理由として挙げる割合が有意に高く，それぞれ，33%，42%，50%であった．60 代以上の年齢階層ではそれ以外の年齢階層に比べ，大学生協売店の利用を目的とする回答者の割合が有意に高い（36%）．また，学内施設見学を目的とする訪問者の割合は，知り合いに本学関係者がいるかどうかで顕著な有意差が認められた．

表 6　本学の訪問経験

帯広畜産大学の訪問経験		全体	性別		年代		
			男性	女性	30代以下	40･50代	60代以上
ある	度数(人)	103	26	65	24	33	45
	%	59.5%	63.4%	56.5%	50.0%	61.1%	65.2%
ない	度数(人)	70	15	50	24	21	24
	%	40.5%	36.6%	43.5%	50.0%	38.9%	34.8%
合計	度数(人)	173	41	115	48	54	69
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

帯広畜産大学の訪問経験		十勝居住年数		自身と帯広畜産大学の関係	
		5年未満か管外に居住	5年以上	知り合いに帯広畜産大学の教職員や学生がいる	知り合いに帯広畜産大学の教職員や学生はいない
ある	度数(人)	12	83	50	50
	%	41.4%	62.4%	72.5%	51.5%
ない	度数(人)	17	50	19	47
	%	58.6%	37.6%	27.5%	48.5%
合計	度数(人)	29	133	69	97
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 7　本学を訪問した理由（複数回答）

	全体		性別		年代			十勝居住年数		自身と畜大の関係	
	度数（人）	ケースの%	男性	女性	30代以下	40･50代	60代以上	5年未満か管外に居住	5年以上	知り合いに畜大の教職員や学生がいる	知り合いに畜大の教職員や学生はいない
大学生協売店利用	28	27.5%	30.8%	26.6%	8.3%	30.3%	36.4%	25.0%	28.0%	34.0%	20.4%
畜大祭訪問	25	24.5%	15.4%	26.6%	25.0%	27.3%	20.5%	25.0%	22.0%	16.0%	28.6%
カフェ利用	23	22.5%	7.7%	32.8%	41.7%	24.2%	11.4%	50.0%	19.5%	26.0%	20.4%
大学構内散策	15	14.7%	19.2%	9.4%	12.5%	15.2%	15.9%	8.3%	15.9%	16.0%	12.2%
大学生協食堂利用	14	13.7%	3.8%	18.8%	12.5%	21.2%	9.1%	0.0%	15.9%	18.0%	8.2%
学内施設見学	11	10.8%	19.2%	7.8%	25.0%	0.0%	11.4%	8.3%	11.0%	20.0%	2.0%
附属図書館利用	9	8.8%	11.5%	9.4%	12.5%	9.1%	6.8%	8.3%	9.8%	12.0%	6.1%
講演会参加	7	6.9%	7.7%	6.3%	8.3%	0.0%	11.4%	0.0%	8.5%	8.0%	4.1%
動物病院受診	6	5.9%	0.0%	6.3%	8.3%	0.0%	9.1%	8.3%	6.1%	8.0%	2.0%
寮祭訪問	4	3.9%	0.0%	4.7%	8.3%	3.0%	2.3%	0.0%	4.9%	6.0%	2.0%
ｵｰﾌﾟﾝｷｬﾝﾊﾟｽ参加	3	2.9%	3.8%	3.1%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	3.7%	6.0%	0.0%
体験授業参加	2	2.0%	3.8%	1.6%	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	2.4%	4.0%	0.0%
市民開放授業受講	1	1.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.0%	0.0%	0.0%	1.2%	0.0%	2.0%
その他	32	31.4%	38.5%	29.7%	33.3%	27.3%	34.1%	50.0%	29.3%	30.0%	34.7%

「帯広畜産大学を訪れたことがない」と回答した回答者に，訪れない理由を尋ねたところ（複数回答），一番多い理由は「用事が無い」（67%），次いで，「構内に入ってよいのかわからない」（20%），「場所が遠い」（9%）の順であった（表 8）．この傾向は男女別，年代別，本学関係者の知り合いの有無別にみても同様だが，十勝管内居住年数が 5 年未満あるいは管外に居住する回答者では，「場所が遠い」（25%）が 2 番目に多い理由として挙げられ，十勝管内居住年数が 5 年以上の回答者の当該理由選択率に比べ有意に高かった．なお，「その他」の具体的内容は，「引っ越してきたばかりのため」（2 人），「行きたいがイベント情報がない」，「地元ではないので」であった．

「帯広畜産大学を訪れたことがない」と回答した回答者に，さらに「何があれば本学を訪れてみたいと思うか」尋ねたところ（複数回答），「イベントや講演会の情報」が回答者全体の 66%と最も多く，次いで「入りやすい雰囲気」（31%）であった．「その他」の具体的記述内容は，「学生が育てた野菜や肉の販売」，「小さな子供と行きやすかったら」であった．

表 8　本学を訪れない理由（複数回答）

	全体		性別		年代			十勝居住年数		自身と畜大の関係	
	度数（人）	ケースの%	男性	女性	30代以下	40･50代	60代以上	5年未満か管外に居住	5年以上	知り合いに畜大の教職員や学生がいる	知り合いに畜大の教職員や学生はいない
用事が無い	44	66.7%	64.3%	68.8%	75.0%	68.4%	59.1%	50.0%	74.5%	73.7%	62.8%
入ってよいのか分からない	13	19.7%	21.4%	16.7%	16.7%	26.3%	13.6%	18.8%	17.0%	15.8%	20.9%
場所が遠い	6	9.1%	14.3%	6.3%	4.2%	5.3%	18.2%	25.0%	4.3%	10.5%	9.3%
興味を引く講演やｲﾍﾞﾝﾄがない	3	4.5%	0.0%	6.3%	4.2%	5.3%	4.5%	6.3%	4.3%	0.0%	7.0%
交通の便が悪い	2	3.0%	0.0%	4.2%	0.0%	0.0%	9.1%	0.0%	4.3%	5.3%	2.3%
興味が無い	1	1.5%	7.1%	0.0%	0.0%	5.3%	0.0%	0.0%	2.1%	0.0%	2.3%
その他	4	6.1%	0.0%	8.3%	8.3%	5.3%	4.5%	18.8%	2.1%	5.3%	7.0%

表 9　何があれば本学を訪れてみたいと思うか（複数回答）

	全体		性別		年代			十勝居住年数		自身と畜大の関係	
	度数（人）	ケースの%	男性	女性	30代以下	40･50代	60代以上	5年未満か管外に居住	5年以上	知り合いに畜大の教職員や学生がいる	知り合いに畜大の教職員や学生はいない
ｲﾍﾞﾝﾄや講演会の情報	34	55.7%	35.7%	65.1%	54.5%	55.0%	57.9%	53.3%	55.6%	47.1%	59.5%
入りやすい雰囲気	19	31.1%	42.9%	27.9%	40.9%	30.0%	21.1%	46.7%	26.7%	35.3%	28.6%
交通の便がよければ	9	14.8%	7.1%	11.6%	9.1%	10.0%	26.3%	6.7%	17.8%	5.9%	19.0%
身近なことに関する講演会	7	11.5%	7.1%	14.0%	9.1%	15.0%	10.5%	20.0%	8.9%	11.8%	11.9%
いつでも利用できる教育･研究内容展示兼畜大ｸﾞｯｽﾞ販売施設があれば	5	8.2%	21.4%	4.7%	0.0%	15.0%	10.5%	0.0%	11.1%	11.8%	7.1%
大学正門側に年中無休の総合案内所があれば	3	4.9%	0.0%	4.7%	4.5%	5.0%	5.3%	6.7%	4.4%	0.0%	7.1%
その他	6	9.8%	14.3%	9.3%	22.7%	0.0%	5.3%	20.0%	6.7%	11.8%	9.5%

4. 本学主催イベントの認知度と情報源（設問 6，設問 7）

回答者全員に，選択肢に掲げた本学や本学学生が主催しているイベントで知っているものを選択肢の中からすべて回答してもらった（複数回答）．単純集計の結果，回答が最も多かった順に，1 位は「畜大祭」で 75%，2 位は「寮祭」で 34%，3 位は「乗馬体験」で 18%，4 位は「講演会」で 13%，5 位は「畜大ふれあいフェスティバル」で 11%，6 位は「みんなのちくだい。」で 11%，7 位は「市民向け講座」で 8%，8 位は「子ども体操教室」で 7%，同率 9 位は「十勝ジンギスカン会議」「ふれあい牧場親子体験学習」で 5%だった（表 10）．ただし，表 10 に掲げた“ケースの%”は，設問 6 の回答選択肢のどれも選択しなかった場合を欠損ケースとして扱い分母にカウントしていないため，解釈する上で注意が必要である．当該設問回答の欠損ケース数は回収調査票総数の 28%を占める．このことは，回答者全体の 3 割弱が設問 6 の選択肢に掲げた本学や本学学生主催のイベントを全く知らない可能性があることを示唆している．この点を踏まえると各イベントの認知度は，「畜大祭」54%，「寮祭」24%，「乗馬体験」13%，「講演会」9%，「畜大ふれあいフェスティバル」8%，「みんなのちくだい。」8%，「市民向け講座」6%，「子ども体操教室」5%，「十勝ジンギスカン会議」「ふれあい牧場親子体験学習」4%程度である可能性もある．

男女間で各イベントの認知度に統計的に有意な差は認められなかった．年代別にみると，「寮祭」は 40・50 代が 46%と 30 代以下の 14%よりも認知度が高く，「子ども体操教室」は 60 代未満の年代に比べ 60 代以上の認知度が低くなっており，いずれも統計的有意差が認められた．また，十勝管内居住年数別にみると，「畜大祭」，「寮祭」，「講演会」で居住年数 5 年以上の回答者の認知度（それぞれ，79%，39%，14%）が居住年数 5 年未満か管外居住の回答者の認知度（それぞれ，53%，12%，6%）より高く，他方で「子ども体操教室」は十勝管内居住年数 5 年未満か管外居住の回答者の認知度（24%）が居住年数 5 年以上の回答者の認知度（4%）より高かった．これらは，いずれも統計的有意差が認められた．さらに回答者と本学との関係別にみると，「畜大祭」，「寮祭」，「乗馬体験」で本学関係者に知り合いのいる回答者の認知度（それぞれ，81%，43%，28%）が知り合いのいない回答者の認知度（それぞれ，67%，27%，9%）より高く，統計的有意差が認められた．上述した理由により，表 10 に掲げた回答者属性別イベント認知度は過大推計の可能性があるが，その場合でも属性カテゴリ間の認知度差に関する結果は変わらない．

本学や本学学生主催のイベントを知った情報源について選択肢の中からすべて回答してもらったところ（複数回答），集計結果は表 11 のようになった．単純集計の結果，回答が最も多かった順に，1 位は「十勝毎日新聞」で 44%，2 位は「口コミ」で 25%，3 位は「帯広市の広報誌」で 15%，4 位は「ポスター」で 14%，5 位は「テレビ番組での紹介」で 8%，6 位は「本学のホームページ」で 5%，同率 7 位は「帯広市のホームページ」「十勝毎日新聞以外の新聞」で 4%だった．なお，「その他」の具体的記入内容は，“アンケート”，“畜大牛乳パック”，“工事”，“子供の学校からのお便り”，“看板やチラシ”であった

性別や十勝居住年数の違いや知り合いに本学関係者がいるかどうかで情報源の相対度数に統計的に有意な違いがみられなかったが，年代別にみると，60 代以上の回答者は過半（54%）が「十勝毎日新聞」を情報源として挙げている一方，30 代以下の回答者の最大の情報源は「口コミ」（48%）であり，30 代以下の回答者は，新聞やテレビ，広報誌といった従来型の情報媒体より，口コミや SNS が情報源として利用されていることが明らかとなった．

表 10　本学または本学学生が主催するイベントの認知度（複数回答）

	全体		性別		年代			十勝居住年数		自身と畜大の関係	
	度数（人）	ケースの%	男性	女性	30代以下	40･50代	60代以上	5年未満か管外に居住	5年以上	知り合いに畜大の教職員や学生がいる	知り合いに畜大の教職員や学生はいない
畜大祭	93	75.0%	80.0%	73.3%	82.8%	85.4%	62.3%	52.9%	78.8%	81.1%	68.7%
寮祭	42	33.9%	44.0%	31.4%	13.8%	46.3%	35.8%	11.8%	39.4%	43.4%	26.9%
乗馬体験	22	17.7%	20.0%	16.3%	10.3%	22.0%	18.9%	17.6%	19.2%	28.3%	9.0%
講演会	16	12.9%	12.0%	12.8%	6.9%	17.1%	13.2%	5.9%	14.1%	13.2%	13.4%
畜大ふれあいﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙ	14	11.3%	8.0%	11.6%	17.2%	4.9%	13.2%	29.4%	8.1%	11.3%	11.9%
みんなのちくだい。	13	10.5%	8.0%	11.6%	3.4%	9.8%	15.1%	11.8%	9.1%	9.4%	9.0%
市民向け講座	10	8.1%	16.0%	5.8%	6.9%	9.8%	7.5%	11.8%	8.1%	11.3%	6.0%
子ども体操教室	9	7.3%	0.0%	10.5%	13.8%	12.2%	0.0%	23.5%	4.0%	11.3%	4.5%
十勝ｼﾞﾝｷﾞｽｶﾝ会議	6	4.8%	0.0%	5.8%	0.0%	9.8%	3.8%	11.8%	3.0%	7.5%	3.0%
ふれあい牧場親子体験学習	6	4.8%	0.0%	7.0%	3.4%	4.9%	5.7%	0.0%	6.1%	5.7%	4.5%
その他	2	1.6%	4.0%	1.2%	0.0%	2.4%	1.9%	5.9%	1.0%	0.0%	3.0%

表 11　本学または本学学生の主催するイベントの情報源（複数回答）

	全体		性別		年代			十勝居住年数		自身と畜大の関係	
	度数（人）	ケースの%	男性	女性	30代以下	40･50代	60代以上	5年未満か管外に居住	5年以上	知り合いに畜大の教職員や学生がいる	知り合いに畜大の教職員や学生はいない
十勝毎日新聞	56	44.4%	40.7%	41.2%	17.2%	50.0%	53.7%	33.3%	47.5%	50.9%	37.3%
ﾛｺﾐ	31	24.6%	25.9%	25.9%	48.3%	14.3%	20.4%	22.2%	24.8%	21.8%	25.4%
帯広市の広報誌	19	15.1%	14.8%	14.1%	13.8%	16.7%	14.8%	22.2%	12.9%	9.1%	19.4%
ﾎﾟｽﾀｰ	18	14.3%	7.4%	17.6%	20.7%	19.0%	7.4%	11.1%	14.9%	16.4%	13.4%
ﾃﾚﾋﾞ	10	7.9%	7.4%	8.2%	3.4%	7.1%	11.1%	5.6%	8.9%	5.5%	9.0%
畜大のﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ	6	4.8%	11.1%	3.5%	10.3%	2.4%	3.7%	0.0%	5.9%	5.5%	4.5%
帯広市のﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ	5	4.0%	3.7%	4.7%	0.0%	2.4%	7.4%	11.1%	3.0%	3.6%	4.5%
十勝毎日新聞以外の新聞	5	4.0%	7.4%	3.5%	0.0%	4.8%	5.6%	0.0%	5.0%	5.5%	3.0%
Facebook	3	2.4%	0.0%	3.5%	10.3%	0.0%	0.0%	11.1%	1.0%	3.6%	1.5%
Twitter	3	2.4%	0.0%	3.5%	6.9%	2.4%	0.0%	5.6%	2.0%	1.8%	3.0%
雑誌	2	1.6%	0.0%	2.4%	3.4%	0.0%	1.9%	5.6%	1.0%	1.8%	1.5%
ﾗｼﾞｵ	2	1.6%	0.0%	1.2%	0.0%	0.0%	3.7%	0.0%	2.0%	1.8%	1.5%
その他	8	6.3%	3.7%	5.9%	3.4%	9.5%	5.6%	5.6%	5.9%	7.3%	6.0%

5. 本学オリジナル乳製品の認知度と購入経験（設問 10）

表 12～表 14 は，本学畜産フィールド科学センターで飼養されている乳牛から生産された生乳を本学乳製品工場で加工し，学内外に販売している「畜大牛乳」（低温殺菌 500ml パック [1]，高温殺菌 1000ml パックの 2 種類）と「畜大牛乳アイスクリーム」の認知度と購入経験の回答の集計結果である．

回答者全体の各乳製品の認知度は，「畜大牛乳（1000ml，高温殺菌）」が最も高く 73%，次いで「畜大牛乳（500ml，低温殺菌）」70%，「畜大牛乳アイスクリーム」56%の順であった．また，購入経験があると回答した人の割合も，認知度と同じ順であり，それぞれ，41%，31%，22%であった．

年代別にみると，「畜大牛乳（1000ml，高温殺菌）」，「畜大牛乳（500ml，低温殺菌）」の認知度は 60 代以上が，それぞれ，83%，81%と，30 代以下の 54%，57%より高く，統計的な有意差が認められた．「畜大牛乳（1000ml，高温殺菌）」，「畜大牛乳（500ml，低温殺菌）」の購入経験がある人の割合も，60 代以上が，それぞれ，59%，49%と，30 代以下の 19%，17%より高く，統計的な有意差が認められた．また，「畜大牛乳アイスクリーム」の購入経験のある人の割合は 60 代以上が 32%と，他の年代の回答者よりも有意に高かった．

性別や十勝管内居住年数の違いによる本学オリジナル乳製品の認知度や購入経験の顕著な相違は確認できなかったが，「畜大牛乳（500ml，低温殺菌）」，「畜大牛乳アイスクリーム」の認知度は本学関係者の知り合いがいる回答者が，それぞれ，79%，68%と，そうでない回答者の 63%，49%より高く，統計的な有意差が認められた．

表 12　畜大牛乳（500ml，低温殺菌）の認知度と購入経験

		全体	性別		年代		
			男性	女性	30代以下	40･50代	60代以上
購入したことがある	度数(人)	52	9	35	8	11	33
	%	31.5%	22.0%	32.1%	17.0%	21.6%	49.3%
知っているが購入したことはない	度数(人)	63	20	38	19	23	21
	%	38.2%	48.8%	34.9%	40.4%	45.1%	31.3%
知らない	度数(人)	50	12	36	20	17	13
	%	30.3%	29.3%	33.0%	42.6%	33.3%	19.4%
合計	度数(人)	165	41	109	47	51	67
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

		十勝居住年数		自身と帯広畜産大学の関係	
		5年未満か管外に居住	5年以上	知り合いに帯広畜産大学の教職員や学生がいる	知り合いに帯広畜産大学の教職員や学生はいない
購入したことがある	度数(人)	7	40	23	28
	%	24.1%	31.0%	34.3%	29.5%
知っているが購入したことはない	度数(人)	10	51	30	32
	%	34.5%	39.5%	44.8%	33.7%
知らない	度数(人)	12	38	14	35
	%	41.4%	29.5%	20.9%	36.8%
合計	度数(人)	29	129	67	95
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[1] 低温殺菌畜大牛乳は，人手不足やコスト高などの理由により，本年 3 月 28 日をもって製造休止となる．

表 13　畜大牛乳（1000ml，高温殺菌）の認知度と購入経験

		全体	性別		年代		
			男性	女性	30代以下	40･50代	60代以上
購入したことがある	度数(人)	69	12	52	9	24	36
	%	41.1%	29.3%	46.4%	18.8%	44.4%	54.5%
知っているが購入したことはない	度数(人)	53	16	31	17	17	19
	%	31.5%	39.0%	27.7%	35.4%	31.5%	28.8%
知らない	度数(人)	46	13	29	22	13	11
	%	27.4%	31.7%	25.9%	45.8%	24.1%	16.7%
合計	度数(人)	168	41	112	48	54	66
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

		十勝居住年数		自身と帯広畜産大学の関係	
		5年未満か管外に居住	5年以上	知り合いに帯広畜産大学の教職員や学生がいる	知り合いに帯広畜産大学の教職員や学生はいない
購入したことがある	度数(人)	9	54	29	37
	%	31.0%	41.5%	42.6%	38.9%
知っているが購入したことはない	度数(人)	9	42	25	28
	%	31.0%	32.3%	36.8%	29.5%
知らない	度数(人)	11	34	14	30
	%	37.9%	26.2%	20.6%	31.6%
合計	度数(人)	29	130	68	95
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 14　畜大牛乳アイスクリームの認知度と購入経験

		全体	性別		年代		
			男性	女性	30代以下	40･50代	60代以上
購入したことがある	度数(人)	36	6	26	7	8	21
	%	21.7%	15.0%	23.2%	14.9%	14.8%	32.3%
知っているが購入したことはない	度数(人)	57	16	34	18	17	22
	%	34.3%	40.0%	30.4%	38.3%	31.5%	33.8%
知らない	度数(人)	73	18	52	22	29	22
	%	44.0%	45.0%	46.4%	46.8%	53.7%	33.8%
合計	度数(人)	166	40	112	47	54	65
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

		十勝居住年数		自身と帯広畜産大学の関係	
		5年未満か管外に居住	5年以上	知り合いに帯広畜産大学の教職員や学生がいる	知り合いに帯広畜産大学の教職員や学生はいない
購入したことがある	度数(人)	6	28	18	17
	%	20.7%	21.5%	27.3%	17.7%
知っているが購入したことはない	度数(人)	8	47	27	30
	%	27.6%	36.2%	40.9%	31.3%
知らない	度数(人)	15	55	21	49
	%	51.7%	42.3%	31.8%	51.0%
合計	度数(人)	29	130	66	96
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

6. 本学ロゴマークの認知度（設問 1）

2017 年に制定された本学のロゴマークは，校章とともに本学を象徴するものであるが，主に広報的な性格のものとして、学内外へ発信するコミュニケーション媒体に使用されている．そこで本学のロゴマークを示した上で，回答者に知っているか尋ねたところ，知っている人の割合は 19%であった．男女間で認知度に有意差はなかったが，年代別にみると，60 代以上では認知度が 30%と 60 代未満の回答者に比べ高く，統計的有意差が認められた．また，十勝管内居住年数が 5 年以上の回答者の認知度は 21%で，5 年未満か管外に居住している回答者の 3%より高く，本学関係者の知り合いがいる回答者の認知度は 28%で，そうでない回答者の 13%より高かった．いずれも統計的に有意な差が認められたが，本学訪問経験の有無による認知度の有意な差はなかった．

表 15　本学ロゴマークの認知度

		全体	性別		年代		
			男性	女性	30代以下	40･50代	60代以上
知っている	度数(人)	32	11	15	5	6	21
	%	18.5%	26.8%	13.0%	10.4%	11.1%	30.4%
知らない	度数(人)	141	30	100	43	48	48
	%	81.5%	73.2%	87.0%	89.6%	88.9%	69.6%
合計	度数(人)	173	41	115	48	54	69
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

		十勝居住年数		自身と帯広畜産大学の関係	
		5年未満か管外に居住	5年以上	知り合いに帯広畜産大学の教職員や学生がいる	知り合いに帯広畜産大学の教職員や学生はいない
知っている	度数(人)	1	28	19	13
	%	3.4%	21.1%	27.5%	13.4%
知らない	度数(人)	28	105	50	84
	%	96.6%	78.9%	72.5%	86.6%
合計	度数(人)	29	133	69	97
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

参考表 1 は，本学学生と地域住民の交流等に関するアンケート調査[2]で，対象学生に本学ロゴマークを示し，さらに当該マークの意味を説明した上で，当該マークとその意味を知っているか尋ねた結果である．回答者全体の 71%が本学ロゴマークを知っていたが，その意味まで知っている学生は 2%未満であった．属性別にみると，学年や出身地の違いによる認知度に目立った差はない

[2] 本学学生に対する地域住民の交流等に関するアンケート調査は，2018 年 6 月 7 日の本学畜産学部授業「教育心理学」（渡邉教授担当）ならびに 6 月 8 日の本学畜産学部授業「有機化学」（折笠助教担当）において担当教員の了解を得た後，受講者全員にアンケート調査票を配付し，本調査に協力の意思を表明した受講者にその場で回答記入してもらい，回答済み票を回収した．回答済みアンケート調査票の回収件数は「教育心理学」受講者 146 件，「有機化学」受講者 40 件であった．「有機化学」受講者の回収件数が少ないのは，前日の「教育心理学」を受講した際にすでに本アンケート調査票に回答した受講生が相当数いたためである．回答者の性別は，女性が 68%（126 人），男性が 32%（58 人）；学年は，2 年生が 78%（138 人），3 年生が 3%（5 人），4 年生が 2%（3 人），5・6 年生（すべて獣医学課程所属）が 18%（32 人）；所属ユニット等は，食品科学ユニットが 23%（42 人），家畜生産科学ユニットが 21%（38 人），獣医学課程が 19%（35 人），環境生態学ユニットが 16%（29 人），植物生産科学ユニットが 12%（22 人），農業経済学ユニットが 5%（10 人），農業環境工学ユニットが 4%（8 人）；出身地は北海道外が 66%（121 人），十勝以外の北海道内が 30%（55 人），十勝管内が 4%（8 人）であった．

ものの，男女別では女子学生の認知度が 79%で，男子学生の 54%に比べ高く，統計的に有意な差が認められた.

参考表 1　本学学生の本学ロゴマーク認知度

		全体	性別		学年		出身地	
			男性	女性	2年生	3年生以上	北海道内	北海道外
マークだけ知っている	度数(人)	129	30	99	98	28	45	84
	%	69.4%	51.7%	78.6%	71.0%	70.0%	71.4%	69.4%
マークとその意味の両方を知っている	度数(人)	3	2	1	1	1	1	2
	%	1.6%	3.4%	.8%	.7%	2.5%	1.6%	1.7%
知らない	度数(人)	54	26	26	39	11	17	35
	%	29.0%	44.8%	20.6%	28.3%	27.5%	27.0%	28.9%
合計	度数(人)	186	58	126	138	40	63	121
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

7. 本学に対する認識・評価（設問 8）

地元住民が本学をどのように認識・評価しているかを知るために，「活気がある」，「魅力的である」，「親しみやすい」，「信頼できる」の各項目について本学をどう評価するか，“そう思う”（5）から“そう思わない”（1）までの 5 段階で評定してもらった．表 16 から表 19 は，評価項目ごとの集計結果である．

「本学は活気がある」について，先ず回答者全体の評定分布を見ると，個別の評定カテゴリでは“どちらともいえない”が最も多く 36%を占めるが，“どちらかといえばそう思う”と“そう思う”を合わせた肯定的評価は 61%と，“どちらかといえばそう思わない”と“そう思わない”を合わせた否定的評価の 4%を大きく上回った（表 16）．次いで，回答者の属性別評定分布の Wilcoxon の順位和検定ならびに Kruskal-Wallis 検定の結果，年代のカテゴリ，自身と本学の関係の有無，本学訪問経験の有無で評定値の分布に統計的に有意な差があることが確認された．さらに年代カテゴリによる差の多重比較の結果，40･50 代のグループと 60 代以上のグループの間に有意な差が認められた．この検定結果は，表 16 において，60 代以上層では“そう思う”との評

表 16　「帯広畜産大学は活気がある」の評定結果

活気がある		全体	性別		年代		
			男性	女性	30代以下	40･50代	60代以上
そう思わない	度数(人)	2	1	1	0	0	2
	%	1.2%	2.5%	0.9%	0.0%	0.0%	3.0%
どちらかといえばそう思わない	度数(人)	4	0	4	2	1	1
	%	2.4%	0.0%	3.5%	4.2%	1.9%	1.5%
どちらともいえない	度数(人)	60	15	45	20	24	16
	%	35.7%	37.5%	39.5%	41.7%	45.3%	23.9%
どちらかといえばそう思う	度数(人)	59	14	37	15	21	23
	%	35.1%	35.0%	32.5%	31.3%	39.6%	34.3%
そう思う	度数(人)	43	10	27	11	7	25
	%	25.6%	25.0%	23.7%	22.9%	13.2%	37.3%
合計	度数(人)	168	40	114	48	53	67
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

活気がある		十勝居住年数		自身と帯広畜産大学の関係		帯広畜産大学訪問経験	
		5年未満か管外に居住	5年以上	知り合いに帯広畜産大学の教職員や学生がいる	知り合いに帯広畜産大学の教職員や学生はいない	ある	ない
そう思わない	度数(人)	1	1	0	2	1	1
	%	3.4%	0.8%	0.0%	2.1%	1.0%	1.5%
どちらかといえばそう思わない	度数(人)	2	2	1	3	2	2
	%	6.9%	1.5%	1.4%	3.2%	2.0%	3.0%
どちらともいえない	度数(人)	12	46	19	40	27	33
	%	41.4%	35.1%	27.5%	42.1%	26.7%	49.3%
どちらかといえばそう思う	度数(人)	8	48	29	30	42	17
	%	27.6%	36.6%	42.0%	31.6%	41.6%	25.4%
そう思う	度数(人)	6	34	20	20	29	14
	%	20.7%	26.0%	29.0%	21.1%	28.7%	20.9%
合計	度数(人)	29	131	69	95	101	67
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

定が最多の 37%を占めること，本学関係者の知り合いがいる回答者層や本学訪問経験のある回答者層では，そうでない回答者層に比べ肯定的評価がそれぞれ 18 ポイント，24 ポイント高いことに反映されている．

「本学は魅力的である」について，回答者全体の評定分布を見ると，個別の評定カテゴリでは“どちらかといえばそう思う”が最も多く 39%を占め，“どちらかといえばそう思う”と“そう思う”を合わせた肯定的評価は 68%と，“どちらかといえばそう思わない”と“そう思わない”を合わせた否定的評価の 3%を大きく上回った（表 17）．回答者の属性別評定分布の差の統計的検定の結果，年代のカテゴリ，本学訪問経験の有無で評定値の分布に有意な差があることが認められた．さらに年代カテゴリによる差の多重比較の結果，40･50 代のグループと 60 代以上のグループの間に有意な差が認められた．この検定結果は，表 17 において，60 代以上層では“そう思う”との評定が最多の 42%を占めること，本学訪問経験のある回答者層では，そうでない回答者層に比べ肯定的評価が 15 ポイント高いことに照応している．

「本学は親しみやすい」について，回答者全体の評定分布を見ると，個別の評定カテゴリでは“どちらともいえない”が最も多く 38%を占めたが，“どちらかといえばそう思う”と“そう思う”を合わせた肯定的評価は 58%と，“どちらかといえばそう思わない”と“そう思わない”を合わせた否定的評価の 4%を大きく上回った（表 18）．回答者の属性別評定分布の差の統計的検定の結果，自身と本学の関係の有無，本学訪問経験の有無で評定値の分布に統計的に有意な差があることが確認された．この検定結果は，表 18 において，本学関係者の知り合いがいる回答者層や

表 17　「帯広畜産大学は魅力的である」の評定結果

魅力的である		全体	性別		年代		
			男性	女性	30代以下	40･50代	60代以上
そう思わない	度数(人)	2	1	1	0	0	2
	%	1.3%	2.5%	0.9%	0.0%	0.0%	3.0%
どちらかといえばそう思わない	度数(人)	2	0	2	1	1	0
	%	1.3%	0.0%	1.8%	2.1%	1.9%	0.0%
どちらともいえない	度数(人)	46	10	34	13	20	13
	%	28.9%	25.0%	30.4%	27.1%	38.5%	19.7%
どちらかといえばそう思う	度数(人)	65	17	42	23	19	23
	%	38.8%	42.5%	37.5%	47.9%	36.5%	34.8%
そう思う	度数(人)	51	12	33	11	12	28
	%	29.6%	30.0%	29.5%	22.9%	23.1%	42.4%
合計	度数(人)	166	40	112	48	52	66
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

魅力的である		十勝居住年数		自身と帯広畜産大学の関係		帯広畜産大学訪問経験	
		5年未満か管外に居住	5年以上	知り合いに帯広畜産大学の教職員や学生がいる	知り合いに帯広畜産大学の教職員や学生はいない	ある	ない
そう思わない	度数(人)	2	0	0	2	1	1
	%	6.9%	0.0%	0.0%	2.1%	1.0%	1.5%
どちらかといえばそう思わない	度数(人)	1	1	0	2	1	1
	%	3.4%	0.8%	0.0%	2.1%	1.0%	1.5%
どちらともいえない	度数(人)	4	41	16	29	22	24
	%	13.8%	31.5%	23.5%	30.9%	22.0%	36.4%
どちらかといえばそう思う	度数(人)	14	49	28	37	38	27
	%	48.3%	37.7%	41.2%	39.4%	38.0%	40.9%
そう思う	度数(人)	8	39	24	24	38	13
	%	27.6%	30.0%	35.3%	25.5%	38.0%	19.7%
合計	度数(人)	29	130	68	94	100	66
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

本学訪問経験のある回答者層では，そうでない回答者層に比べ肯定的評価がそれぞれ 23 ポイント，33 ポイント高いことに反映されている．

「本学は信頼できる」について，回答者全体の評定分布を見ると，個別の評定カテゴリでは“どちらかといえばそう思う”が最も多く 38%を占め，“どちらかといえばそう思う”と“そう思う”を合わせた肯定的評価は 69%と，“どちらかといえばそう思わない”と“そう思わない”を合わせた否定的評価の 2%を大きく上回った（表 19）．回答者の属性別評定分布の差の統計的検定の結果，自身と本学の関係の有無，本学訪問経験の有無で評定値の分布に統計的に有意な差があることが確認された．この検定結果は，表 19 において，本学関係者の知り合いがいる回答者層や本学訪問経験のある回答者層では，そうでない回答者層に比べ肯定的評価がそれぞれ 20 ポイント，22 ポイント高いことに照応するものである．

各項目評定間の関連を Goodman-Kruskal のγ係数[3]を算出し検討した．「本学は活気がある」の評定値と「本学は魅力的である」，「本学は親しみやすい」，「本学は信頼できる」の評定値の間のγ値は，それぞれ 0.822，0.708，0.686，「本学は魅力的である」の評定値と「本学は親しみやすい」，「本学は信頼できる」の評定値の間のγ値は，それぞれ 0.815，0.839，「本学は親しみやすい」の評定値と「本学は信頼できる」の評定値の間のγ値は 0.896 で，いずれの項目の評定値の間にも強い正の有意な相関が認められた．

表 18　「帯広畜産大学は親しみやすい」の評定結果

親しみやすい		全体	性別		年代		
			男性	女性	30代以下	40･50代	60代以上
そう思わない	度数(人)	3	1	2	0	1	2
	%	1.8%	2.5%	1.8%	0.0%	1.9%	3.0%
どちらかといえばそう思わない	度数(人)	3	1	2	1	0	2
	%	1.8%	2.5%	1.8%	2.1%	0.0%	3.0%
どちらともいえない	度数(人)	64	11	50	21	24	19
	%	38.1%	27.5%	43.9%	43.8%	45.3%	28.4%
どちらかといえばそう思う	度数(人)	52	14	33	15	20	17
	%	31.0%	35.0%	28.9%	31.3%	37.7%	25.4%
そう思う	度数(人)	46	13	27	11	8	27
	%	27.4%	32.5%	23.7%	22.9%	15.1%	40.3%
合計	度数(人)	168	40	114	48	53	67
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

親しみやすい		十勝居住年数		自身と帯広畜産大学の関係		帯広畜産大学訪問経験	
		5年未満か管外に居住	5年以上	知り合いに帯広畜産大学の教職員や学生がいる	知り合いに帯広畜産大学の教職員や学生はいない	ある	ない
そう思わない	度数(人)	1	2	0	3	2	1
	%	3.4%	1.5%	0.0%	3.2%	2.0%	1.5%
どちらかといえばそう思わない	度数(人)	1	2	0	3	1	2
	%	3.4%	1.5%	0.0%	3.2%	1.0%	3.0%
どちらともいえない	度数(人)	13	49	20	43	26	38
	%	44.8%	37.4%	29.0%	45.3%	25.7%	56.7%
どちらかといえばそう思う	度数(人)	10	40	25	25	39	13
	%	34.5%	30.5%	36.2%	26.3%	38.6%	19.4%
そう思う	度数(人)	4	38	24	21	33	13
	%	13.8%	29.0%	34.8%	22.1%	32.7%	19.4%
合計	度数(人)	29	131	69	95	101	67
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[3] Goodman-Kruskal のγ係数は，2 つの順序尺度変数間の関連の強さと方向を測るノンパラメトリック指標のひとつで，-1～1 の範囲の値をとる．その値の絶対値が 1 に近いほど 2 変数間の相関は強い．

8. 本学学生に対する認識・評価（設問 9）

次に地元住民が本学学生をどのように認識・評価しているかを知るために，「活気がある」，「親しみやすい」，「礼儀やマナーを守る」，「高い専門知識がある」の各項目について本学学生をどう評価するか，「そう思う」から「そう思わない」までの 5 段階で評定してもらった．表 20 から表 23 は，評価項目ごとの集計結果である．

「本学学生は活気がある」について，先ず回答者全体の評定分布を見ると，個別の評定カテゴリでは“どちらかといえばそう思う”が最も多く 39%を占め，“どちらかといえばそう思う”と“そう思う”を合わせた肯定的評価は 66%と，“どちらかといえばそう思わない”と“そう思わない”を合わせた否定的評価の 5%を大きく上回った（表 20）．次いで，回答者の属性別評定分布の Wilcoxon の順位和検定ならびに Kruskal-Wallis 検定の結果，十勝居住年数の違いで当該評定値の分布に統計的に有意な差があることが確認された．この検定結果は，表 20 において，十勝管内に 5 年以上居住している回答者層では，そうでない回答者グループに比べて“そう思う”との評定割合が 12 ポイント高いことに照応している．

「本学学生は親しみやすい」について，回答者全体の評定分布を見ると，個別の評定カテゴリでは“どちらともいえない”が最も多く 36%を占めるが，“どちらかといえばそう思う”と“そう思う”を合わせた肯定的評価は 62%と，“どちらかといえばそう思わない”と“そう思わな

表 19　「帯広畜産大学は信頼できる」の評定結果

信頼できる		全体	性別		年代		
			男性	女性	30代以下	40･50代	60代以上
そう思わない	度数(人)	1	0	1	0	0	1
	%	0.6%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	1.5%
どちらかといえばそう思わない	度数(人)	2	0	2	1	0	1
	%	1.2%	0.0%	1.8%	2.1%	0.0%	1.5%
どちらともいえない	度数(人)	50	11	37	15	21	14
	%	29.8%	27.5%	32.5%	31.3%	39.6%	20.9%
どちらかといえばそう思う	度数(人)	63	14	42	18	21	24
	%	37.5%	35.0%	36.8%	37.5%	39.6%	35.8%
そう思う	度数(人)	52	15	32	14	11	27
	%	31.0%	37.5%	28.1%	29.2%	20.8%	40.3%
合計	度数(人)	168	40	114	48	53	67
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

信頼できる		十勝居住年数		自身と帯広畜産大学の関係		帯広畜産大学訪問経験	
		5年未満か管外に居住	5年以上	知り合いに帯広畜産大学の教職員や学生がいる	知り合いに帯広畜産大学の教職員や学生はいない	ある	ない
そう思わない	度数(人)	0	1	0	1	1	0
	%	0.0%	0.8%	0.0%	1.1%	1.0%	0.0%
どちらかといえばそう思わない	度数(人)	2	0	0	2	0	2
	%	6.9%	0.0%	0.0%	2.1%	0.0%	3.0%
どちらともいえない	度数(人)	9	40	14	35	22	28
	%	31.0%	30.5%	20.3%	36.8%	21.8%	41.8%
どちらかといえばそう思う	度数(人)	12	49	30	32	40	23
	%	41.4%	37.4%	43.5%	33.7%	39.6%	34.3%
そう思う	度数(人)	6	41	25	25	38	14
	%	20.7%	31.3%	36.2%	26.3%	37.6%	20.9%
合計	度数(人)	29	131	69	95	101	67
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

い”を合わせた否定的評価の 2%を大きく上回った（表 21）．回答者の属性別評定分布の差の統計的検定の結果，回答者自身と本学の関係の有無で評定値の分布に統計的に有意な差があることが認められた．この検定結果は，表 21 において，本学関係者の知り合いがいる回答者層では，そうでない回答者層に比べ肯定的評価が 24 ポイント高いことに反映されている．

「本学学生は礼儀やマナーを守る」について，回答者全体の評定分布を見ると，個別の評定カテゴリでは“どちらともいえない”が最も多く 36%を占めるが，“どちらかといえばそう思う”と“そう思う”を合わせた肯定的評価は 61%と，“どちらかといえばそう思わない”と“そう思わない”を合わせた否定的評価の 2%を大きく上回った（表 22）．回答者の属性別評定分布の差の統計的検定の結果，回答者自身と本学の関係の有無で評定値の分布に統計的に有意な差があることが認められた．この検定結果は，表 22 において，本学関係者の知り合いがいる回答者層では，そうでない回答者層に比べ肯定的評価が 18 ポイント高いことに照応している．

「本学学生には高い専門知識がある」について，回答者全体の評定分布を見ると，個別の評定カテゴリでは“そう思う”が最も多く 43%を占め，“どちらかといえばそう思う”と“そう思う”を合わせた肯定的評価は 75%と，“どちらかといえばそう思わない”と“そう思わない”を合わせた否定的評価の 2%を大きく上回った（表 23）．回答者の属性別評定分布の差の統計的検定の結果，回答者自身と本学の関係の有無で評定値の分布に統計的に有意な差があることが認められた．この検定結果は，表 23 において，本学関係者の知り合いがいる回答者層では，そうでない回答者層に比べ肯定的評価が 21 ポイント高いことに現れている．

表 20　「帯広畜産大学生は活気がある」の評定結果

活気がある		全体	性別		年代		
			男性	女性	30代以下	40･50代	60代以上
そう思わない	度数(人)	5	2	3	1	1	3
	%	3.0%	5.0%	2.6%	2.1%	1.9%	4.5%
どちらかといえばそう思わない	度数(人)	3	0	3	2	0	1
	%	1.8%	0.0%	2.6%	4.2%	0.0%	1.5%
どちらともいえない	度数(人)	49	9	39	15	17	17
	%	29.2%	22.5%	34.2%	31.3%	32.1%	25.4%
どちらかといえばそう思う	度数(人)	65	19	40	18	24	23
	%	38.7%	47.5%	35.1%	37.5%	45.3%	34.3%
そう思う	度数(人)	46	10	29	12	11	23
	%	27.4%	25.0%	25.4%	25.0%	20.8%	34.3%
合計	度数(人)	168	40	114	48	53	67
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

活気がある		十勝居住年数		自身と帯広畜産大学の関係		帯広畜産大学訪問経験	
		5年未満か管外に居住	5年以上	知り合いに帯広畜産大学の教職員や学生がいる	知り合いに帯広畜産大学の教職員や学生はいない	ある	ない
そう思わない	度数(人)	2	3	1	4	3	2
	%	6.9%	2.3%	1.4%	4.2%	3.0%	2.9%
どちらかといえばそう思わない	度数(人)	2	1	1	2	1	2
	%	6.9%	0.8%	1.4%	2.1%	1.0%	2.9%
どちらともいえない	度数(人)	10	38	18	29	26	23
	%	34.5%	29.0%	26.1%	30.5%	26.0%	33.8%
どちらかといえばそう思う	度数(人)	10	51	28	37	42	23
	%	34.5%	38.9%	40.6%	38.9%	42.0%	33.8%
そう思う	度数(人)	5	38	21	23	28	18
	%	17.2%	29.0%	30.4%	24.2%	28.0%	26.5%
合計	度数(人)	29	131	69	95	100	68
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

各項目評定間の関連を Goodman-Kruskal の γ 係数を算出し検討した.「本学学生は活気がある」の評定値と「本学学生は親しみやすい」,「本学学生は礼儀やマナーを守る」,「本学学生には高い専門知識がある」の評定値の間の γ 値は，それぞれ 0.832，0.721，0.658,「本学学生は親しみやすい」の評定値と「本学学生は礼儀やマナーを守る」,「本学学生には高い専門知識がある」の評定値の間の γ 値は，それぞれ 0.858，0.767,「本学学生は礼儀やマナーを守る」の評定値と「本学学生には高い専門知識がある」の評定値の間の γ 値は 0.755 で，いずれの項目の評定値の間にも強い正の有意な相関が認められた.

表 21　「帯広畜産大学生は親しみやすい」の評定結果

親しみやすい		全体	性別		年代		
			男性	女性	30代以下	40･50代	60代以上
そう思わない	度数(人)	2	1	1	0	1	1
	%	1.2%	2.5%	0.9%	0.0%	1.9%	1.5%
どちらかといえばそう思わない	度数(人)	1	0	1	1	0	0
	%	0.6%	0.0%	0.9%	2.1%	0.0%	0.0%
どちらともいえない	度数(人)	61	10	49	17	21	23
	%	36.3%	25.0%	43.0%	35.4%	39.6%	34.3%
どちらかといえばそう思う	度数(人)	59	18	36	17	21	21
	%	35.1%	45.0%	31.6%	35.4%	39.6%	31.3%
そう思う	度数(人)	45	11	27	13	10	22
	%	26.8%	27.5%	23.7%	27.1%	18.9%	32.8%
合計	度数(人)	168	40	114	48	53	67
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

親しみやすい		十勝居住年数		自身と帯広畜産大学の関係		帯広畜産大学訪問経験	
		5年未満か管外に居住	5年以上	知り合いに帯広畜産大学の教職員や学生がいる	知り合いに帯広畜産大学の教職員や学生はいない	ある	ない
そう思わない	度数(人)	1	1	0	2	1	1
	%	3.4%	0.8%	0.0%	2.1%	1.0%	1.5%
どちらかといえばそう思わない	度数(人)	1	0	0	1	0	1
	%	3.4%	0.0%	0.0%	1.1%	0.0%	1.5%
どちらともいえない	度数(人)	14	46	17	43	30	31
	%	48.3%	35.1%	24.6%	45.3%	30.0%	45.6%
どちらかといえばそう思う	度数(人)	6	50	28	30	41	18
	%	20.7%	38.2%	40.6%	31.6%	41.0%	26.5%
そう思う	度数(人)	7	34	24	19	28	17
	%	24.1%	26.0%	34.8%	20.0%	28.0%	25.0%
合計	度数(人)	29	131	69	95	100	68
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 22　「帯広畜産大学生は礼儀やマナーを守る」の評定結果

礼儀やマナーを守る		全体	性別		年代		
			男性	女性	30代以下	40･50代	60代以上
そう思わない	度数(人)	2	1	1	0	1	1
	%	1.2%	2.5%	0.9%	0.0%	1.9%	1.5%
どちらかといえばそう思わない	度数(人)	2	0	2	2	0	0
	%	1.2%	0.0%	1.8%	4.2%	0.0%	0.0%
どちらともいえない	度数(人)	61	12	45	14	23	24
	%	36.3%	30.0%	39.5%	29.2%	43.4%	35.8%
どちらかといえばそう思う	度数(人)	56	13	38	17	20	19
	%	33.3%	32.5%	33.3%	35.4%	37.7%	28.4%
そう思う	度数(人)	47	14	28	15	9	23
	%	28.0%	35.0%	24.6%	31.3%	17.0%	34.3%
合計	度数(人)	168	40	114	48	53	67
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

礼儀やマナーを守る		十勝居住年数		自身と帯広畜産大学の関係		帯広畜産大学訪問経験	
		5年未満か管外に居住	5年以上	知り合いに帯広畜産大学の教職員や学生がいる	知り合いに帯広畜産大学の教職員や学生はいない	ある	ない
そう思わない	度数(人)	1	1	0	2	1	1
	%	3.4%	0.8%	0.0%	2.1%	1.0%	1.4%
どちらかといえばそう思わない	度数(人)	2	0	1	1	1	1
	%	6.9%	0.0%	1.4%	1.1%	1.0%	1.4%
どちらともいえない	度数(人)	11	47	19	41	33	28
	%	37.9%	36.2%	27.5%	43.6%	33.3%	40.6%
どちらかといえばそう思う	度数(人)	8	45	25	30	37	19
	%	27.6%	34.6%	36.2%	31.9%	37.4%	27.5%
そう思う	度数(人)	7	37	24	20	27	20
	%	24.1%	28.5%	34.8%	21.3%	27.3%	29.0%
合計	度数(人)	29	130	69	94	99	69
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 23　「帯広畜産大学生には高い専門知識がある」の評定結果

高い専門知識がある		全体	性別		年代		
			男性	女性	30代以下	40･50代	60代以上
そう思わない	度数(人)	1	0	1	0	1	0
	%	0.6%	0.0%	0.9%	0.0%	1.9%	0.0%
どちらかといえばそう思わない	度数(人)	1	0	1	1	0	0
	%	0.6%	0.0%	0.9%	2.1%	0.0%	0.0%
どちらともいえない	度数(人)	40	9	29	10	15	15
	%	24.0%	23.1%	25.4%	20.8%	28.3%	22.7%
どちらかといえばそう思う	度数(人)	54	14	36	16	20	18
	%	32.3%	35.9%	31.6%	33.3%	37.7%	27.3%
そう思う	度数(人)	71	16	47	21	17	33
	%	42.5%	41.0%	41.2%	43.8%	32.1%	50.0%
合計	度数(人)	173	39	114	48	53	66
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

高い専門知識がある		十勝居住年数		自身と帯広畜産大学の関係		帯広畜産大学訪問経験	
		5年未満か管外に居住	5年以上	知り合いに帯広畜産大学の教職員や学生がいる	知り合いに帯広畜産大学の教職員や学生はいない	ある	ない
そう思わない	度数(人)	0	1	0	1	1	0
	%	0.0%	0.8%	0.0%	1.1%	1.0%	0.0%
どちらかといえばそう思わない	度数(人)	1	0	0	1	0	1
	%	3.4%	0.0%	0.0%	1.1%	0.0%	1.4%
どちらともいえない	度数(人)	7	32	9	30	20	20
	%	24.1%	24.8%	13.2%	31.9%	20.4%	29.0%
どちらかといえばそう思う	度数(人)	9	42	25	28	30	24
	%	31.0%	32.6%	36.8%	29.8%	30.6%	34.8%
そう思う	度数(人)	12	54	34	34	47	24
	%	41.4%	41.9%	50.0%	36.2%	48.0%	34.8%
合計	度数(人)	29	129	68	94	98	69
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

9. 本学学生に望む地域協力活動（設問 11）

最後に，本学学生に望む地域協力活動を，「その他」を含む 11 項目の中からすべて選んでもらった（複数回答）．単純集計の結果，回答が多かった順に，1 位は「子どもの学習支援」で 43%，2 位は「自然環境保全活動」で 40%，3 位は「地元のイベント運営」で 28%，4 位は「高齢者の支援」で 25%，5 位は「まちづくりの企画運営」で 24%，6 位は「障がい者の支援」で 17%，7 位は「地域清掃活動」で 15%，8 位は「外国人の支援」で 14%，9 位は「スポーツ指導」で 10%，10 位は「防犯パトロール」で 9%であった．なお，「その他」の具体的記入内容は，“農作業”，“農業インターンシップ”，“町内会活動への積極的参加”であった（表 24）．

性別にみると，「子どもの学習支援」は女性が 50%と男性の 26%よりも希望者が多かった．また，年代別にみると，「子どもの学習支援」は 40・50 代が 57%と 30 代以下の 41%や 60 代以上の 33%より，「自然環境保全活動」は 60 代以上が 52%と 30 代以下の 36%や 40・50 代の 29%より，「高齢者の支援」は 60 代以上が 36%と 30 代以下の 17%や 40・50 代の 16%よりも希望者が多かった．さらに，十勝管内居住年数別にみると，「自然環境保全活動」は十勝管内居住年数 5 年未満か管外に居住する人が 59%で，5 年以上十勝管内に居住している人の 37%より多く，自身と本学との関係別にみると，「スポーツ指導」は本学関係者が知り合いにいる人は 15%で，いない人の 6%より多かった．これらについてはいずれも統計的な有意差が認められた．

表 24　本学学生に望む地域協力活動（複数回答）

	全体		性別		年代			十勝居住年数		自身と畜大の関係	
	度数（人）	ケースの%	男性	女性	30代以下	40･50代	60代以上	5年未満か管外に居住	5年以上	知り合いに畜大の教職員や学生がいる	知り合いに畜大の教職員や学生はいない
子どもの学習支援	66	42.6%	26.3%	50.0%	40.5%	57.1%	32.8%	29.6%	46.2%	41.5%	44.2%
自然環境保全活動	62	40.0%	36.8%	38.2%	35.7%	28.6%	51.6%	59.3%	37.0%	43.1%	36.0%
地元のｲﾍﾞﾝﾄ運営	44	28.4%	34.2%	24.5%	21.4%	30.6%	31.3%	33.3%	27.7%	30.8%	26.7%
高齢者の支援	38	24.5%	23.7%	24.5%	16.7%	16.3%	35.9%	18.5%	24.4%	18.5%	29.1%
まちづくりの企画運営	37	23.9%	34.2%	19.6%	19.0%	18.4%	31.3%	29.6%	24.4%	24.6%	23.3%
障がい者の支援	27	17.4%	15.8%	15.7%	23.8%	8.2%	20.3%	18.5%	16.0%	21.5%	12.8%
地域清掃活動	23	14.8%	13.2%	12.7%	23.8%	12.2%	10.9%	14.8%	16.0%	10.8%	16.3%
外国人の支援	21	13.5%	15.8%	12.7%	11.9%	18.4%	10.9%	22.2%	12.6%	16.9%	10.5%
ｽﾎﾟｰﾂ指導	15	9.7%	7.9%	8.8%	7.1%	8.2%	12.5%	11.1%	9.2%	15.4%	5.8%
防犯ﾊﾟﾄﾛｰﾙ	13	8.4%	5.3%	8.8%	9.5%	12.2%	4.7%	14.8%	7.6%	9.2%	8.1%
その他	4	2.6%	5.3%	2.0%	2.4%	0.0%	4.7%	7.4%	1.7%	3.1%	2.3%

参考表 2 は，13 ページ脚注 1 のアンケートに回答した本学学生が在学中に参加してみたいボランティア活動や地域交流活動（複数回答）の集計結果である．なお，対象学生に提示した回答選択肢のリストには，表 24 のものに加え，”献血”，“十勝の食の発信”，“十勝農業の応援活動”を設定している．

単純集計の結果，回答が多かった順に，1 位は「自然環境保護活動」で 38%，同率 2 位は「献血」と「十勝の食の発信」で 26%，4 位は「十勝農業の応援活動」で 24%，5 位は「子どもの学習支援」で 17%，6 位は「地域清掃活動」で 14%，7 位は「地元のイベント運営」で 13%，8 位は「外国人の支援」で 10%，9 位は「スポーツ指導」で 6%，10 位は「障がい者の支援」で 4%だった．その一方，地元住民回答者から要望が比較的多かった「高齢者の支援」に在学中に参加してみたいと回答した学生は皆無であった．また，「地域協力活動には参加したくない」と回答した学生が全体の 13%を占め，全体ランキングの 7 位であったことも特筆される結果である．なお，「その他」の具体的記入内容は，“被災地支援”（1 名）であった．

回答者の属性の違いで回答率に差があるかどうかについて回答選択肢ごとにχ^2検定を行ったところ，性別，学年，出身地の違いで統計的に有意な差は確認されなかった.

参考表 2　本学学生が在学中に参加してみたいボランティア活動や地域交流活動（複数回答）

	全体		性別		学年		出身地	
	度数（人）	ケースの%	男性	女性	2年生	3年生以上	北海道内	北海道外
自然環境保護活動	69	37.9%	26.3%	43.2%	37.2%	38.5%	38.1%	37.8%
献血	47	25.8%	14.0%	31.2%	27.0%	20.5%	20.6%	28.6%
十勝の食の発信	47	25.8%	21.1%	28.0%	24.8%	25.6%	28.6%	24.4%
十勝農業の応援活動	44	24.2%	24.6%	24.0%	23.4%	28.2%	30.2%	21.0%
子どもの学習支援	30	16.5%	14.0%	17.6%	19.7%	7.7%	17.5%	16.0%
地域清掃活動	26	14.3%	12.3%	15.2%	16.8%	5.1%	17.5%	12.6%
地元のｲﾍﾞﾝﾄ運営	23	12.6%	12.3%	12.8%	16.8%	0.0%	17.5%	10.1%
外国人の支援	18	9.9%	5.3%	12.0%	10.2%	7.7%	12.7%	8.4%
ｽﾎﾟｰﾂ指導	11	6.0%	7.0%	5.6%	4.4%	12.8%	1.6%	8.4%
障がい者の支援	7	3.8%	3.5%	4.0%	5.1%	0.0%	3.2%	4.2%
防犯ﾊﾟﾄﾛｰﾙ	3	1.6%	1.8%	1.6%	2.2%	0.0%	1.6%	1.7%
まちづくりの企画運営	2	1.1%	0.0%	1.6%	1.5%	0.0%	0.0%	1.7%
その他	3	1.6%	1.8%	1.6%	1.5%	2.6%	1.6%	1.7%
高齢者の支援	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
地域協力活動はしたくない	24	13.2%	21.1%	9.6%	10.9%	20.5%	12.7%	13.4%

10. 提言

本調査は，授業の一環として限られた時間の制約下で実施したため，アンケート調査票に盛り込む設問数をかなり絞らざるを得なかった．その結果，報告書を作成する過程において，分析に必要な設問が決定的に不足していることを痛感することになった．本学の訪問経験だけではなく，訪問頻度や最近ではいつ頃訪れたのか，また，本学や本学学生主催の各種イベントの認知に加え，参加経験の有無や参加頻度を尋ねるとともに．本学や本学学生に関する具体的な感想･意見を自由記述回答してもらい，そのテキストマイニングを併用して本学や本学学生に対する評定結果を分析する必要がある．これらは今後の調査に委ねるとして，最後に本調査の実習に参加した学生による「まとめと提言」を次ページ以降に掲載しておく．

本学オリジナル乳製品の場合と同様に，本学あるいは本学学生主催のイベントを知っていても実際にそのイベントに参加した経験のある回答者はより少ない（例えば，「畜大祭」，「寮祭」を知っている回答者のうち当該イベントを訪れた割合は，それぞれ，34%，11%である）．

比較的高齢で十勝管内居住年数が長い住民は，相対的に本学を一度でも訪れた可能性が大きい傾向があり，地元紙（十勝毎日新聞）の記事を通じて本学や本学学生の活動や主催イベントについて知る機会が多い．また，本学が十勝管内唯一の高等教育機関であることが，本学や本学学生にプラスのイメージを持たせていることも考えられる．しかし，比較的若い地元住民の本学あるいは本学学生が主催するイベント等の主な情報源は，地元紙ではなく，知り合いからの口コミであり，スマートホン所有率の高さを考慮すれば，年代・趣味・子どもの有無などの属性に応じたFacebook, twitter, line など多様な SNS による口コミ情報であると推察される．そこで，比較的若い地元住民への情報周知は，インターネット上のホームページ内容の充実だけでなく，費用対効果を検討の上，本学公式 twitter の開設，line@や Instagram の活用を試みてはどうだろうか．

地元住民が本学学生に期待する地域協力活動の内容と，本学学生が在学中に参加してみたいボランティア活動や地域協力活動の内容に一定の隔たりが認められた．農獣医系大学である本学に入学する学生の関心の中心と，地元住民が若者としての本学学生に期待する主な活動に違いが生ずるのはやむを得ないが，それに加え，本学学生の地域協力活動が主に，本学と帯広市のプロジェクトとしてサークルを通じた公募企画型の活動として行われていることも一因である．

そこで，本学学生支援課内に，帯広市役所を通さない町内会や NPO など多様な地元団体からのニーズも幅広く受付け，サークルに所属していないが個人的にボランティアとして地域協力活動に取り組みたい本学学生の希望とマッチングさせる役割を担うボランティア支援室の設置を提言したい． NPO 法人ユースビジョン大学ボランティアセンター情報ウェブによれば，2018 年 5 月 20 日現在，全国 141 大学の 160 キャンパスで学生のボランティア活動を支援する専門部署として大学ボランティアセンターが設置されている[4]．名称は，「ボランティアセンター」のほか，「ボランティア支援センター」，「ボランティア活動支援室」など様々だが，文部科学省所管かつ学生募集を行っている全国 761 大学の 18.5%が，大学の建学理念に沿った教育的意義や大学の地域貢献を目的に，学内に学生ボランティア活動を支援する組織を設けている[5]．2019 年度の本学年度計画には，「教育に関する目標を達成するための措置」の①-3 で，社会貢献・ボランティア活動のカリキュラム化が掲げられている．本学学生を対象としたアンケート結果によれば，“地域協力活動をしたくない”と回答したものを除く対象学生が十勝管内でボランティアや地域協力活動に参加する場合に，重視することを 2 つまで選んでもらったところ，最も多かったのは，“自分の時間的余裕のある範囲でできる活動であるかどうか”（50%）であり，次いで“その活動により地域の人々が喜んでくれる活動かどうか”（37%），“将来的に自分の職業や就職に役立ちそうな活動かど

[4] https://www.daigaku-vc.info/大学ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ/　短期大学や専門学校のボランティアセンターは除く．
[5] 赤澤清孝「大学ボランティアセンターの現状と課題：全国における大学ボランティアセンター実態調査より」『大学と学生』第 78 号（2010 年），https://www.jasso.go.jp/gakusei/archive/dtog/201003.html，p.35

うか”（31%），“個人の達成感がある活動かどうか”（29%）の順となっている．さらに，ボランティアや地域協力活動への参加に際し，本学や行政から受けたい支援を尋ねたところ，最も多かったのは，“活動場所で出向くための交通手段の支援”（51%），次いで“当該活動の募集方法や広報の充実”（47%），“活動参加に対する多少の謝礼や交通費の支給”（35%）であり，“単位の認定や表彰など活動参加に対する評価”を挙げた対象者の割合は 19%と相対的に少なかった．これらの調査結果をふまえた，社会貢献・ボランティア活動のカリキュラム化が望まれる．

【付記】

本報告書の分析に用いたアンケートは，2018 年度前期に澤田が担当した「農業経済学実習Ⅱ」（畜産科学課程農業経済学ユニット）の授業で実施したものである．アンケート調査票の作成，実査を担当してくれた本学畜産科学課程農業経済学ユニット 3 年次学生の岡崎奈那さん，奥田優希さん，亀井明日花さん，亀水茜さん，木枝瑛介君，黒田葉月さん，田中康太君，星野百香さん，吉田新君，アンケートにお答えいただいた地元住民の皆様と 2018 年度前期「教育心理学」および「有機化学」受講生の方々，本学ロゴマークに関する情報提供ならびにアンケート質問項目の提案をしていただいた本学広報･基金係長の早坂美穂さんをはじめとする本学職員の方々に記して謝意を申し上げる．

要約

農業経済学実習Ⅱでは地域住民の畜大と畜大生に対するイメージ調査を行った。その背景として、畜大はイベントや行事を行っているが地域住民には認知されていない、畜大生は地域住民との接点がない、純粋に畜大生が地域住民からどのように思われているかを知りたい、といったことがあげられた。このアンケート調査をもとに地域住民の畜大に対する現状の評価を理解し、解決案を模索することで畜大が地域住民により親しまれる大学を目指すことができるのではないかという仮説が生まれた。調査方法として、ダイイチ自衛隊前店、イトーヨーカドー帯広店、イオン帯広店の 3 店舗の出入り口と教育心理学、有機化学の授業でアンケート用紙を配布し地域住民の方々と畜大生に回答していただいた。回収したアンケート用紙をもとにクロス集計などの分析を行ったところ、畜大を訪れたことがある方は畜大に対してよい印象を持ってくれていたが、なかには入ってよいのかわからないといった結果やファームデザインを利用したいが場所がわからない、畜大に行く理由がないという結果が得られた。また畜大に訪れるための条件としてイベントや講演会の情報、大学の入りやすい雰囲気という結果が得られた。地域住民が畜大生に望む地域協力活動と畜大生が参加してみたい地域協力活動は自然環境保全活動、地域清掃活動で一致した。これらの結果からまとめとして畜大が行っているイベントの認知度は低くポスターやチラシなどの自然と目に入ってくるような情報源を多く提供するべきである。また畜大に来てもらえるように看板などをわかりやすく立てて入りやすい雰囲気づくりをする必要があった。

2018.08.16 s16120130

要約

本調査によって、普段なかなか知ることのできない地元住民の畜大に対する評価をアンケートによって調査した。地元住民の利用頻度が高いとみられる、ダイイチ自衛隊前店、イオン帯広店、イトーヨーカドー帯広店で午後1時から午後4時の間に利用者にアンケートを配布しその場で回答してもらった。また、畜大生と地元住民の交流等に関するアンケート調査も、教育心理学、有機化学の受講生に協力してもらい、アンケート調査を行った。地元住民向けのアンケート回答者は60代以上の年代の回答者が最も多く、30代以下の若い世代の回答者が少なくなってしまい、一部の問題で判断に迷う結果となってしまうことがあった。

地元住民の畜大訪問経験と、畜大に対する評価結果をみると、畜大を訪れたことのある人は畜大に対する評価が高いが、訪れたことのない人は評価が低いことがわかった。このことから、畜大に対する評価をあげるには、訪れたことのない人に畜大を訪れてもらう必要があると考える。

さらに、畜大を訪れたことのない人になぜ畜大を訪れないのかを問うと、「用事が無い」、「入ってよいのかわからない」と回答する人が多くいたため、畜大に用事を作っていただくことが畜大を訪れるきっかけとなると考える。

また、畜大で行われるイベントの認知度は低く、地元住民に知られていないことがわかった。イベントはサークル活動を通したSNSなどでも宣伝されているが、地元住民の情報源となっているのは十勝毎日新聞や口コミなどの受動的な情報源であることから、畜大のイベントを地元住民に知ってもらうには受動的な情報源を活用するのが良い。畜大で行われるイベントを知ってもらうことで畜大に入りやすい雰囲気もつくられるのではないだろうか。

さらに、地元住民の畜大に対する評価を上げるには、地元のニーズと畜大生が行いたいと考える活動が一致している自然環境保全活動を行うことが良いだろう。これからは積極的に畜大生に取り組んでもらうことで、地元住民の畜大に対する理解も深まり、畜大に対する評価も上がるだろう。

4. まとめと提言

畜大を訪れたことがある人の方が畜大に対する評価が高いことがわかった。しかし、地域住民の中には大学内に入っていいのかわからないという人が一定数いた。また、畜大でのイベントや講演会の情報が入ってこないため、畜大に訪れないという人もいたため、畜大や畜大生が行っているイベントの認知度は低いことがわかった。イベントを知る情報源として多くを占めたのは、十勝毎日新聞や口コミ、広報誌など受動的なもので、SNS やインターネットを情報源としている人は少ない。

地域住民が望む地域ボランティア活動と畜大生が参加したいと考える活動で一致したものは、自然環境保全活動と地域清掃活動であった。

これらの結果から、帯広畜産大学を親しみやすい大学にするためには、より多くの人に大学に来てもらう必要があると考える。多くの人に大学に来てもらうために、図書館や動物病院、ファームデザインズなどの利用してほしい施設や、大学内の散歩コースをわかりやすく案内する看板を作ることが必要だと考えた。

また、畜大内のイベントや講演会の情報が広めることで、学内に入りやすい雰囲気を作れるのではないかと考え、地域住民の利用が多かった地元新聞や広報誌などで、イベントなどの情報発信をより多く提供する必要がある。

そして、地域住民が望む地域ボランティア活動と畜大生が参加したいと考える活動で一致した、自然環境保全活動と地域清掃活動を積極的に行うことができるよう、大学側から情報を提供するべきであると考える。

これらを行えば、帯広畜産大学が地域住民により親しまれる大学になっていくと考える。

残された課題として、アンケートのボランティア活動に関する質問項目で、地域住民と畜大生とで統一した上での回答の比較分析を行うべきであった。また、今回は午後 1 時から 4 時のスーパーでアンケートをとったため、年齢層に偏りがあった。幅広い年齢層の地域住民から回答を得るために、アンケートの実施日時や場所の慎重な選定が必要であった。

この実習は、アンケートの作成、回収したデータの入力、収集した様々なデータから、クロス集計などで関係性を見つけるなど、今後の卒業研究で必要なことを一から学べる実習であったと思う。残された課題、反省点を自分の研究に生かしたい思う。また調査にあたって、調査地の方へのアポイントメントのとりかたや、回答者への接し方など、コミュニケーション能力の重要性を改めて感じることができ、卒業研究に限らず、就職してから役立つような経験になったと思う。

本調査は、畜大および畜大生は、地元住民からどのようにみられているのかという素朴な疑問から、帯広畜産大学が地元住民により親しまれ、学内施設利用や畜大主催イベントの参加、またそこでの交流を行ってもらうにはどうすればよいのか、畜大生が地元住民にできることはなにか、またどのようにすればその参加率は向上するのかを明らかにするために行った。

そこで地元住民と畜大生それぞれにアンケート調査を行い、地元住民には畜大への訪問回数やイメージ、畜大に求めることを回答してもらい、畜大生には地元住民との交流経験の有無、参加してみたいボランティア活動について回答してもらった。この 2 つのアンケート結果から、単純集計による回答傾向、関係性のある質問事項同士のクロス集計を行った結果、畜大を親しみやすく感じる人は、畜大への訪問経験のある人であるということや、訪問経験のない人は畜大に入っていいのかわからない、また畜大主催イベントの情報を知らないという原因があること、畜大生には自然環境保全活動や子どもの学習支援が求められていることがわかった。また畜大生のボランティア活動経験は少ないが、参加したいと思っている学生は非常に多いことがわかった。

よって、地元住民が畜大に訪れるためには、学内マップの作製など学内に入りやすい雰囲気づくりや、地元住民と畜大生の希望に合うイベントやボランティア活動の提案と、新聞や広報誌などによる情報発信、畜大生が積極的に活動するために大学側の情報提供が必要であると結論付けた。

2018.08.16 s16120041

まとめと提言

まとめ

・畜大を訪れたことがある人の方が畜大に対する評価は高いが、地域住民の中には大学構内に入っていいのかわからないという人が一定数いた。
・イベントや講演会の情報がないから畜大に訪れないという地域住民が多い。
・畜大が行っているイベントの認知度は低い。
・イベントの情報源は十勝毎日新聞や口コミ・広報誌などの受動的な情報源が多く占める。
・地域住民が望む地域協力活動と畜大生が参加したいと考える活動が一致したのは自然環境保全活動と地域清掃活動であった。

提言

・より多くの人に大学に来てもらうために、わかりやすい看板をたてるなどして入りやすい雰囲気づくりを行う。
・イベント等の情報発信を地元新聞や広報誌など受動的な情報源でより多く提供する。
・地元でニーズある環境保全活動と地域清掃活動を積極的に行う。

残された課題

・ボランティア等活動に関する質問項目を地域住民と畜大生で統一したうえでの回答の比較分析
・幅広い年齢層の地域住民から回答を得るため、アンケートの実施日時や場所の慎重な選定実施

感想

地域住民の畜大に対するイメージというものは気になっていたのでとても面白いと思った。実習の機会に調べることができてよかった。調査するアンケートの内容について検討する際には文字にする時の言葉選びが大変だった。他にも書式や用紙の表裏に収める必要があったり、質問項目の選定や順序、空白をうまく使ったりなど大変だった。実施日は昼間のスーパー前だったので利用者は老若男女ではなく年配の女性と偏ってしまった。アンケート結果から報告に使えるデータがあまりとれずクロス集計が少なくなってしまった。今回の実習を通してアンケートの取り方や準備ですべきことなど多くを学ぶことができた。

4. まとめと提言

4－1 まとめと提言

本調査によって、普段なかなか知ることのできない地元住民の畜大に対する評価を知ることができた。畜大を訪れたことのある人は畜大に対する評価が高いが、訪れたことのない人は評価が低い。このことから、畜大に対する評価をあげるには、訪れたことのない人に畜大を訪れてもらう必要がある。

畜大を訪れたことのない人がなぜ畜大を訪れないのかというと、「用事が無い」、「入ってよいのかわからない」と回答する人が多くいたため、畜大に用事を作っていただくことが畜大を訪れるきっかけとなるだろう。また、私のアルバイト先でプレアンケートを行った際、「大学の食堂は一般市民も利用しても良いのか」、「大学内カフェの場所がわからない」といった質問があげられたため、大学に入りやすい雰囲気が欠けていると考え、これについての改善も求められる。

また、畜大のイベントの認知度は低く、地元住民に知られていないことがわかった。イベントはサークル活動を通したSNSなどでも宣伝されているが、地元住民の情報源となっているのは十勝毎日新聞や口コミなどの受動的な情報源であることから、畜大のイベントを地元住民に知ってもらうには受動的な情報源を活用するのが良い。畜大で行われるイベントを知ってもらうことで畜大に入りやすい雰囲気もつくられると考える。

さらに、地元住民の畜大に対する評価を上げるには、地元のニーズと畜大生が行いたいと考える活動が一致している自然環境保全活動を行うことが取り組みやすく、積極的に畜大生に取り組んでもらうと良い。地元住民も畜大生を必要とする場合には積極的に募集してもらうことで、畜大生の参加の機会も増えるだろう。

4－2 感想

今まで地元住民の畜大に対する評価を知る機会はなかったが、私の高校生までの周りが感じていそうなイメージは、地元にある唯一の国立大学ということもあり、畜大生は頭が良いというのが一番である。実際にアルバイト先でもそう言われることもある。しかし、地元住民の方の高い評価がある一方、畜大生は地元住民とかかわる機会は少なく、また、地元住民も畜大の活動を把握しきれていない。これからは、双方からお互いの理解のために歩み寄り、地元住民にとってより畜大が身近な存在になればよいと考える。

また今回の実習は、入学後に初めて取り組むグループワークであり、顔も名前もわからないメンバーとの実習で不安があったが、畜大生の実習に取り組む態度や発言などは、私のこれからの大学生活の参考となった。また、これからの学校生活を送るのにとても楽しみであると感じられる内容であった。

4－3 最後に

実習のご指導をしてくださった澤田先生、大学院生のみなさんに深く感謝いたします。

４．まとめと提言

まとめ

・③から畜大を訪れたことがある人の方が畜大に対する評価が高いことがわかった。
・しかし、地域住民の中には大学内に入っていいのかわからないという人が一定数いることもわかった。
・また、畜大でのイベントや講演会の情報が入ってこないため、畜大に訪れないという人が多くいることもわかった。
・次に、④から畜大や畜大生が行っているイベントの認知度は、活動の開催年数や頻度の割には低いということがわかった。
・イベントを知る情報源として多くを占めたのは、十勝毎日新聞や口コミ、広報誌やポスターなどの、たまたま目にするなどで仕入れる情報であった。
・対称的に、自発的に調べなければならない SNS やインターネットを情報源としている人は少ないことがわかった。

・そして、⑥から地域住民が望む地域ボランティア活動と畜大生が参加したいと考える活動で一致したものとして、自然環境保全活動と地域清掃活動があることがわかった。

提言

我々の提言として、主に４つある。親しみやすい大学にするためには、より多くの人に大学に来てもらう必要がある。

１つ目の提言として、より多くの人に大学に来てもらうために、図書館や動物病院、ファームデザインズなどの利用してほしい施設や、大学内の散歩コースをわかりやすく案内する看板を作ることが必要だと考えた。また、畜大内のイベントや講演会の情報が広まれば、入りやすい雰囲気を作れるのではないかと思う。

２つ目の提言は、地域住民の利用が多かった地元新聞や広報誌などのたまたま入る情報源を活用し、イベントなどの情報発信をより多く提供することである。

３つ目の提言は、地域住民が望む地域ボランティア活動と畜大生が参加したいと考える活動で一致した、自然環境保全活動と地域清掃活動を積極的に行うことだ。ボランティア活動をおこなうことで、地域住民が畜大を訪れる機会や畜大生との交流を行う機会が増えれば、畜大への評価も変わってゆくと考えられる。

そのためにも、４つめの提案として挙げるのは、ボランティア活動について、大学としても積極的になってもらうことである。現在、地域ボランティア活動をおこなう際、ほとんどが学生が自発的に情報収集を行うか、部活、サークル活動内で回っている情報を基に参加するしかない。学生も自主的に情報収集するほどボランティア活動に積極的ではないと思われるので、大学側が情報を管理し、学生に提供することで活動を活発化できると考える。

この４つのことを行えば、帯広畜産大学が地域住民により親しまれる大学になっていくのではないか。以上。

地元住民による帯広畜産大学の利用･評価に関するアンケート調査

この調査は、地元住民の方々が帯広畜産大学をどのように利用・評価しているかを明らかにし、地域の皆様により親しまれる帯広畜産大学のあり方を検討するために行うものです。ご協力宜しくお願いします.

帯広畜産大学　農業経済学ユニット３年生　岡崎・奥田・亀井・亀水・木枝・黒田・田中・星野・吉田

問１.　あなたは帯広畜産大学のシンボルマーク（右のマーク）をご存知ですか。
（当てはまるもの１つに○）

１）知っている	２）知らない

問２．あなたは帯広畜産大学を訪れたことがありますか。（当てはまるもの１つに○）

１）ある	２）ない

→問３へお進みください　　→問４へお進みください

問３．問２で「ある」と答えた方にお尋ねします。あなたが帯広畜産大学を訪れた理由を教えてください。（当てはまるもの全てに○）

１）畜大祭を訪問　２）寮祭を訪問　３）附属図書館の利用　４）市民開放授業の受講
５）カフェ(ファームデザインズ)の利用　６）大学生協食堂の利用　７）大学生協売店の利用
８）講演会に参加　９）オープンキャンパスに参加　10)動物病院の受診　11)学内施設見学
12）大学構内の散策　13）体験授業に参加　14)その他（　　）

→問３に回答された方は，問６へお進みください

問４．問２で「ない」と答えた方にお尋ねします。あなたが帯広畜産大学を訪れない理由を教えてください。（当てはまるもの全てに○）

１）興味がないから　２）訪ねる用事がないから　３）大学構内に入ってよいのかわからないから
４）場所が遠すぎるから　５）交通の便が悪いから　６）帯広畜産大学が好きでないから
７）興味を引く講演会やイベントがないから　8）その他（　　）

問５．問２で「ない」と答えた方にお尋ねします。あなたは、何があれば帯広畜産大学を訪れてみたいと思いますか。（当てはまるもの全てに○）

１）身近な事に関する講演会　２）入りやすい雰囲気　３）イベントや講演会の情報
４）交通の便がよければ　５）大学正門のすぐ近くに年中無休の総合案内所があれば
６）地元住民がいつでも利用できる大学の教育・研究内容展示施設兼オリジナルグッズ販売施設があれば
７）その他（　　）

問６．帯広畜産大学や帯広畜産大学生が主催しているイベントで、あなたがご存知のものを教えてください。（当てはまるもの全てに○）

１）寮祭　２）畜大祭　３）畜大ふれあいフェスティバル　４）講演会
５）子ども体操教室（ちくだいＫＩＰ）　６）ジンギスカン会議
７）みんなのちくだい。（ダチョウ見学、アメフト・カーリング・熱気球体験、チーズ・バターづくり）
８）ふれあい牧場親子体験学習　９）市民向け講座　10）乗馬体験
11）その他（　　）

引き続き、裏面の質問にもご回答をよろしくお願いします。

問７．あなたが問６のイベントを知った情報源を教えてください。（当てはまるもの全てに○）

１）帯広畜産大学のホームページ	２）帯広市役所のホームページ	３）Facebook	４）Twitter	
５）十勝毎日新聞	６）その他の新聞	７）雑誌	８）帯広市の広報誌	９）ポスター
10）テレビ	11）ラジオ	12）口コミ	13）その他（　　）	

問８．あなたは次の各項目について帯広畜産大学をどう評価しますか。（各項目当てはまるもの１つに○）

項　目	そう思う	どちらかとえいば そう思う	どちらとも いえない	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
活気がある	5	4	3	2	1
魅力的である	5	4	3	2	1
親しみやすい	5	4	3	2	1
信頼できる	5	4	3	2	1

問９.あなたは次の各項目について帯広畜産大学生をどう評価しますか。（各項目当てはまるもの１つに○）

項　目	そう思う	どちらかとえいば そう思う	どちらとも いえない	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
活気がある	5	4	3	2	1
親しみやすい	5	4	3	2	1
礼儀やマナーを守る	5	4	3	2	1
高い専門知識がある	5	4	3	2	1

問 10．あなたは、帯広畜産大学が独自に製造販売行っている以下の商品についてご存知ですか、また購入したことがありますか。（各商品とも当てはまるもの１つに○）

【畜大牛乳（500ml,低温殺菌）】

１）購入したことがある	２）知っているが購入したことはない	３）知らない

【畜大牛乳（1000ml,高温殺菌）】

１）購入したことがある	２）知っているが購入したことはない	３）知らない

【畜大牛乳アイス】

１）購入したことがある	２）知っているが購入したことはない	３）知らない

問 11．あなたが帯広畜産大学生に望む地域協力活動は何ですか。（当てはまるもの全てに○）

１）地域清掃活動	２）防犯パトロール	３）子どもの学習支援	４）自然環境保全活動
５）高齢者の支援	６）障害者の支援	７）外国人の支援	８）地元のイベント運営
９）スポーツ指導	10）まちづくりの企画運営	11）その他（　　）	

問 12. 最後に、あなた自身のことについて教えてください。（各項目とも当てはまるもの１つに○）

性　別	１）男性	２）女性		
年　代	1）10 代 5）50 代	2）20 代 6）60 代	3）30 代 7）70 代	4）40 代 8）80 代以上
十勝での居住年数	１）１年未満	２）１年以上５年未満	３）５年以上	４）十勝管外に居住
職　業	１）勤めている ４）学生	２）自分で経営している ５）無職	３）専業主婦（夫） ６）その他（　　）	
あなたと帯広畜産大学の関係	１）知り合い（あなた自身を含め）に帯広畜産大学の教職員または学生がいる ２）知り合いに帯広畜産大学の教職員や学生はいない			

お忙しい中、ご協力ありがとうございました！